

様式第 4 号（第 11 項関係）

審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和元年度第 1 回西脇市まちづくり推進審議会
開催日時	令和元年 6 月 6 日（木）午後 7 時 00 分～9 時 00 分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室 2
出席委員の氏名 又は人数	直田春夫会長、岸本信子委員、藤井琢己委員、藤原悟委員、徳丸徹委員、米田育子委員、清水賢一委員、肥田雅之委員、高橋章子委員、篠田善健委員、小林茂夫委員、吉川勝子委員、大前道廣委員 計 13 名
欠席委員の氏名 又は人数	—
出席職員の職・氏名 又は人数	西脇市長 片山象三、都市経営部長 筒井研策、まちづくり課長 池田正人、まちづくり課主査 山上公平、まちづくり課主査 和田裕行、まちづくり課職員 遠藤香里、まちづくり課職員 鳥田朱里 計 7 名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	2 名
議題又は協議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 会長あいさつ 2 市長あいさつ 3 協議等 <ol style="list-style-type: none"> (1) まちづくり事業補助制度について <ol style="list-style-type: none"> ア 西脇市地区まちづくり実践補助事業及び市民提案型まちづくり事業について イ 部会員の指名 (2) 年間スケジュールについて (3) 地域自治協議会モデル事業の効果の確認について (4) 地域自治協議会運営マニュアルについて 4 その他（今後の予定等） <ol style="list-style-type: none"> (1) 第 2 回西脇市まちづくり推進審議会 (2) まちづくり活動審査部会

会議の記録（概要）

発 言 者	発 言 内 容 等
<p>会 長</p> <p>市 長</p>	<p>1 会長あいさつ</p> <p>新年度、また令和元年となり最初のまちづくり推進審議会となるがよろしく願います。6月になり田に水が張られ田植えが進んでいる風景を見ると、この地域の自然の豊かさを感じる。</p> <p>審議会委員は昨年度に比べ数人減っているが、皆さんと活発な議論をしていければと考えているのでよろしく願います。</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>委員の皆様にはご多忙のなか揃ってご出席をいただきお礼を申し上げます。また、昨年度も貴重なご意見を答申としていただいたが、特に地域自治協議会事業などについて、地域の中で大事な役割を担っていただいている皆さんのご意見は本当に貴重であるので、ご負担をお掛けするが今年度も引き続き助言を賜りたい。行政も内部で連携しながら西脇市の地域づくりを皆さんとともに進めていくので今後もよろしく願います。</p>
<p>事 務 局</p> <p>会 長</p> <p>会 長</p>	<p>3 協議等</p> <p>(1) まちづくり事業補助制度について</p> <p>ア 西脇市地区まちづくり実践補助事業及び市民提案型まちづくり事業について（部会での決定を審議会の決定とすることについて）</p> <p>・事務局から「西脇市まちづくり推進審議会条例」第8条（部会）の規定に基づき、部会の設置及び部会での議決を審議会の議決とすることについての概要を説明</p> <p>まちづくり活動審査部会を設置し、2つの補助制度の審査等に関しての協議をしていただき、また、部会での決定を当審議会の決定とさせてもらうことについてご了解いただきたい。</p> <p>◇全員賛成のため部会での決定を審議会の決定とすることについて承認</p> <p>イ 部会員の指名</p> <p>一部の委員の退任により、まちづくり活動審査部会の部会員に1名の欠員が生じたため、新たに1名の委員に部会委員としてお世話になりたい。部会員は、条例第8条第2項の規定により会長が指名することとなっている。補助金に関して経験のある方や、補助金を申請する関係団体に属さない方など考慮したうえで決定した。</p> <p>新たに藤原悟委員に審査部会委員をお願いする。</p> <p>○まちづくり活動審査部会</p>

	<p>岸本信子委員、藤原悟委員、清水賢一委員、米田育子委員、肥田雅之委員の計5名で部会を構成することとする。</p> <p>部会員の皆さんには審議会以外に部会にも出ていただくことになるがよろしく願います。</p>
事務局	<p>(2) 年間スケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料1「地域自治協議会推進スケジュール」に沿って概要を説明 ・続けて事前に委員からいただいた地域自治協議会推進スケジュールに関する質問（黒田庄、比延、津万地区以外の地区における地域自治協議会の設立文脈での状況及びその背景）を、「令和元年度第1回まちづくり推進審議会御質問等」の回答1に沿って説明
会長	<p>スケジュール表に関しての補足だが、我々の審議会委員任期は平成30年度、31年度の2年間となっている。</p> <p>今年度当審議会では、地域自治協議会モデル事業の実施について3年目を迎え、引き続いて一括交付金の使い方やその効果の確認をするとともに、地域自治協議会の制度の周知や運営方法などの手引書の作成といったことについて議論を進めていく予定となっている。前回当審議会から市長へ答申を提出し、一旦は一区切りというところであるが、今年度も4回の会議を予定している。ただ、今年度については特段の必要性が生じない限り行政からの諮問を受けずに協議を進める予定にしている。今年度は第2回の会議が8月頃、第3回の会議が10月頃、また第4回の会議が12月頃という予定だが、委員の皆さんのご意見をいただきながら協議を進めていきたい。</p> <p>また、今年度は比延地区、黒田庄地区に続き、津万地区において地域自治協議会が設立され、初年度からいろいろと事業を計画されているので、審議会でもそれぞれの地区から取組状況のご報告をいただきながら進めていきたいと思う。</p>
会長	<p>(3) 地域自治協議会モデル事業の効果の確認について</p> <p>まずは比延地区と黒田庄地区の2地区の昨年度の地域自治協議会モデル事業の成果について、また、津万地区も含めて3地区の今年度の地域自治協議会の活動予定などについて事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料2「平成30年度地域自治協議会モデル事業一括交付金実績（比延地区、黒田庄地区）」に沿って概要を説明 ・続けて資料2の令和元年度各地区事業計画に沿って、今年度の地域自治協議会モデル事業（津万地区、比延地区、黒田庄地区）

<p>会 長</p>	<p>の取組予定の概要を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あわせて事前に委員からいただいた地域自治協議会の検証についての質問の回答を「令和元年度第1回まちづくり推進審議会御質問等」に沿って説明 <p>事前に委員から質問をいただき、あわせて回答を説明いただいたが、質問により説明の論点が明確になるため、今後もいろいろと質問を出していただきたい。</p> <p>お手元の資料2と当日配布の「質問に対する回答」によって説明をいただいたが、平成30年度も前年に引き続き、2つの地域ではそれぞれの特性を生かして非常に多くの効果的な事業を実施されている。また、今年度は津万地区で新たに津万地区自治協議会が設立され、初年度から活発な活動を計画されている。今年度の地域自治協議会モデル事業は比延地区、黒田庄地区、津万地区の3地区で実施されるが、それぞれ素晴らしい活動を予定されているので、今年度も注目していきたい。</p> <p>先ほどの説明についてもう少し現場のお声を聞かせていただければと思うが、今年度の事業計画等について事業のポイントや補足などがあれば願います。</p>
<p>委 員</p>	<p>先ほど事務局からご説明いただいたとおりだが、黒田庄地区では特に今年度はトヨタ・モビリティ基金の助成を受けながら福祉送迎事業や子どもの見守り活動などを充実させていく予定にしている。</p> <p>これらの事業については黒田庄まちづくり協議会内で実施組織としてNPO法人を立ち上げて進めていく予定にしている。NPO法人については昨日設立総会を行い、来週には県へ申請に行く。法人化については、今年度から西脇市で中間支援業務をされている西脇135の李さんにアドバイスをいただきながら進めている。手続きについては揃えるべき書類の準備など大変なこともあるが、この機会にと思い進めている。事業の中での万一の事故等を想定し、車両を法人で登録するなど、法人化を進めておく方が何かと良いと考えている。車両は子どもの見守り活動にも活用し、青パトとして週に2、3度は運行したい。また、昨年度設立された特産品加工グループ「黒っ娘おぼんざい」が順調に活動を進めているが、地域内で定期的なそうざい販売の場所を増やしてほしいとの声もあるため、車両を活用し、販売場所の充実も図っていきたい。福祉送迎については誰もが対象という訳にはいかないので、家人で送迎できる人がいる方、またコミュニティバス等の利用が問題なくできる方などは対象としない方向で行う。これらのことは視点が違えば民業の圧迫にもつながり得ることなの</p>

	<p>で、公共交通の分野とも調整をしたうえできっちりと進めていきたいと考えている。</p> <p>防災についての取組と自治防災組織の活動も進めているが、地区を単位としてまちづくり協議会での防災組織を考え、市とも連携をしながら体制を整備していく。</p> <p>その他にも各部会を中心に積極的に進めていければと考えている。あつまっ亭の有効活用については兵庫県立大の学生たちと一緒に考え進めていく予定にしている。また、県の「人と自然の博物館」の研究員の先生や県民局等と連携し、自然豊かな黒田庄地区で、特に門柳川周辺で水生生物などの環境学習を深めていくツアーの実施を考えている。</p>
委員	<p>比延地区自治協議会では今年度やっていくことについて昨年度までと大きく変わりはない。防犯カメラについては今年度も昨年度に引き続いて新たに2台を設置したいと思っているが、設置要望を聞いたところ3地区で手を挙げられた。よく協議をして計画的に進めたい。</p> <p>昨年度に引き続き地域の子どもたちが自分たちの地域のいいところや、人権分野などで自分たちが普段思っているようなことの標語を作ってくれており、それを比延地区自治協議会でポスターにし、地域の企業や公民館などに配布する。</p> <p>また、地域のよいところの写真を広く募集してカレンダーにし、比延地区にはこんないいところがあると、もう一度自分たちで見つめ直し、また地区外にも発信していく。</p> <p>空き家の有効活用については、どの地区でも課題としていると思うが、地区としてどう関わって進めていくか、話し合いをしながらよい形で進めていけるよう考えている。地区で実施する事業の資金の流れも比延地区自治協議会を中心に流れていくように徐々に変えている。</p> <p>まちづくりでは特産加工品の分野で力を入れてやっていきたい。万能だれやイチゴジャムなどの製品を上手くビジネスにつなげられたらと考えている。</p>
委員	<p>津万地区自治協議会が5月末に設立総会を経て設立された。本当にいろいろと大変なこともあったが、やっとの思いで設立することができた。事業としては基本的には生き生きTUMA協議会の活動を継承していくこととなるが、秋こいフェスティバルなど様々な事業を行っていく中で、それに関わる「人」というものは広く範囲を拡げていくことになる。これまで生き生きTUMA協議会では自分たちだけで多様な事業を進めていくことに人的な限界を感じていた。津万地区自治協議会の発足により、今後多くの</p>

	<p>人が津万地区を支え、盛り上げていく流れをつくっていく土台となるということに大きな意味があると感じている。また、自治協議会に若い子育て世代の人たちが中心となった「あつまれ部会」が新たにでき、自分たちのできる形で積極的に関わってくれるのはとても良かったことと思っている。</p> <p>全体的にはこれまで地区で実施してきた交流事業等に加えて地域課題の解決につなげる取組に力を入れて進めていく予定にしている。一つには地区として防災関連の取組を進めていきたいと協議をしている。また、住民からニーズを聞き出す機会をつくり、今後の取組の参考にしたいと考えている。</p> <p>今年度は地区内の空き家を改修し、津万地区のまちづくりの拠点を整備する。場所は津万地区の中心あたりになるので、地域の皆さんが立ち寄りやすい場所で活動交流拠点を整備することを通し、地域が一体となって活動の進展を図っていくという大きな事業を進めている。</p>
会 長	<p>3地区とも本当に堅実で前向きな事業を計画し、着実に進められている。これまでの活動を踏まえて拡大していくものもあれば、工夫をしながら継続していくものもある。地域自治協議会のモデル事業も3年目となり、それぞれの地域課題に合わせ特色のある取組を活発に進められている。他の地区にとっても本当に良いモデルとして見ていただけると思うので、引き続き事業を進めてもらえればと思う。</p>
委 員	<p>地域自治協議会モデル事業の内容、あるいはそれ以外のことについて皆さんから質問などはないか。</p> <p>比延、黒田庄地区でこれまで地域自治協議会モデル事業の活動を進めてこられて、その効果の確認としてお聞きしたい。地域自治協議会ができ一括交付金を活用した活動を2年されてきたが、当初から表現としてあった「かゆいところに手が届く」という状況で進めることができたか教えてほしい。</p>
委 員	<p>比延地区においては一括交付金を活用して多様な取組を進めているが、かゆいところに手が届いているのかは分からない。ただ、かゆいところがどこなのかというのは以前より多くの人で共有することはできているように思う。また地区としてかゆいところを探することができるようになったと思う。なるべく多くの方に関わってもらい、自分たちで自分たちのまちづくりを進めていくことが少しずつでも進展すればと思っている。</p>
委 員	<p>黒田庄地区においても一括交付金を活用し、本当に多様な事業を進められている。事業を実施する体制も充実してきたように思う。かゆいところに手が届いたとまでは言えないかもしれない</p>

<p>委員</p>	<p>が、地域自治協議会ができて良かったことの一つとして、本当に多くの方に「参加」ではなく「参画」していただく機会となり、「住民が進めるまちづくり」の基本となるようになってきているように思う。このことは地域にとっては非常に大切な部分であると思っている。私自身はとても忙しくなったが、前向きに進めていきたいと思う。</p> <p>比延地区、黒田庄地区の地域自治協議会モデル事業の予算や決算を拝見したが、一括交付金以外の自主財源について、どのようなかたちで確保されているのか、差し支えなければ参考にお教えいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>比延地区においては区長会から活動に関しての助成金をいただいたり、他地域からの視察研修の受入れに際して視察料を頂戴したりして自主財源の確保を図っている。また作成した地域カレンダーについては地区内や公共施設等に配布する以外に販売もしており、そのようなところでも財源を得る方法を考えながら進めている。今後も工夫をしながら自主財源の確保につながる取組を進めたいと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>黒田庄地区では自主財源の確保で一番大きいものでは自主講座として実施しているインドヨガ講座の手数料収入がある。また、地区区長会からの助成金や老人会等の事務代行にかかる助成金なども貴重な収入となっている。あわせて国や県などの補助制度等も一括交付金以外にとっても有効な財源となるので、行政と密に連携をしながら、やりたいことをしっかりと考えて相談をし、それに合う補助制度の情報を得るといえることが大切かと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>(4) 地域自治協議会運営マニュアルについて</p> <p>地域自治協議会モデル事業も今年度で3年目となり、市の予定で言えば来年度からは本格実施ということになる。報告をいただいたように比延、黒田庄地区に続き、今年度は津万地区でも地域自治協議会が設立され、それぞれの地域特性に合わせて活発な活動を進められているが、地域自治協議会もそれぞれの地域でそれぞれのふさわしい形があるように思う。そのため一様には組織の設立や運営などについて説明できるものではないかもしれないが、設立されている地域自治協議会の運営、またこれから設立しようとしている地区の、設立に向けた一つの目安として使えるような手引書があればということでこれまで当審議会でも協議してきた。今回、事務局でその案となるものを作成いただき、事前に委員の皆さんも目を通していただいたことと思う。この地域自治協議会運営マニュアルはあくまでも素案ということなので、皆さんの意見を聞き良いものにしていければということ</p>

<p>事務局 委員</p>	<p>だ。まず事務局から資料についての説明をいただき、その後皆さんから意見をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料3「地域自治協議会運営マニュアル(案)」に沿って概要を説明。 [委員からの地域自治協議会運営マニュアル(案)に関する意見] ・マニュアルをパッと見たときに「難しそう」と感じる印象。 ・どう見れば情報が分かりやすいかを考え、目次をつけて逆引きできるようにすれば良い。 ・文字が多く並んでいるとなかなか見ようという気になれない。できるだけ文字を少なくしたらどうか。 ・既に設立されている3地区の組織体制や活動事例を紹介すればイメージがしやすいのではないか。 ・今後は別途事例集を作成することも考えてはどうか。 ・構成を「参画と協働のまちづくりガイドライン改訂版」の概要版のように見やすくすればよい。 ・私たちの協議してきたことがこのマニュアルには細かく記載しており、とても嬉しく思う。ただ、情報が多いと見にくいというデメリットもある。 ・それぞれの地区でそれぞれのかたちで進んでいる。地域自治協議会ができて良かったことの紹介があれば分かりやすいのではないか。 ・地域の各種団体の活動休止や廃止等によってまちづくり活動が困難になっている状況の説明を入れたらどうか。 ・地域自治協議会と自治会、区長会との関係性を分かりやすく説明できないか。 ・町単位と地区との活動の棲み分けについて整理して載せてはどうか。町単位で市の委託事業などを受けていくことは今後難しくなってくることも説明を入れたらどうか。 ・一括交付金のメリットをもっと分かりやすく具体的に記載してはどうか。 ・年長者は活動に費やす時間があるが体力がついていかないかもしれない。逆に働き世代では地域に関わって活動したいと思っっているながら時間がないという人もいるだろう。そのあたりもうまく具体例をあげて説明できないか。 ・地域自治協議会を立ち上げる目的は地域課題の解決につなげること。具体例をあげて分かりやすくすればどうか。 ・地域自治協議会のかたちが今後の地域づくりを進めていく上で理想のかたちになると思う。他の地区で参考になるような説明が良いのではないか。
-------------------	---

- ・マニュアルの配布対象はどこになるかを考えて内容を整理すれば良いのではないか。既に設立されているところに向けてのマニュアルはいらぬのか。情報をもう少し少なくしても良いかと思う。
- ・イラストを多く使って分かりやすくしてはどうか。
- ・漫画のような表現にして分かりやすくしてはどうか。
- ・表紙の写真はなぜこの写真にしたのか。変更もできるのか。
- ・マニュアルであるので詳しいもので良いと思う。それを見ながら地域自治協議会の運営を考えるのであれば詳しいものでなければ役立たないのではないか。
- ・Q & Aはとても分かりやすく感じた。このQ & Aをもっと増やしてはどうか。
- ・マニュアルができればそれを活用した勉強会を開催しても良いと思う。
- ・地域のリーダーが読みやすい、易しい内容にしてはどうか。またボランティア団体などで音読できるようにしてほしい。
- ・今後はNPO法人なども非営利とはいえ新たな事業を進めていく財源として稼いでいく時代。もう少し明確な目標を掲げてもいいのではないか。コミュニティビジネスなども大切かと思うのでそのような説明も入れてはどうか。
- ・「自主財源の確保に努める必要がある」というのはわかるが、具体的な事例があれば分かりやすい。
- ・プレゼンテーションのような資料をパンフレットにすれば分かりやすいのではないか。
- ・地域自治協議会と自治会の関係性はあえてマニュアルに取り上げる必要はないのではないか。黒田庄地区では地区の区長会はあくまでも構成団体の一つ。特別視はしていない。
- ・「協働」の説明が必要ではないか。「自助・共助・公助」の図は棒状ではなく円で表せば分かりやすいように思う。
- ・「そもそも地域自治協議会って必要なの？」の説明中で「一番理解し、考えている」というところは、そうではない方もいらっしゃると思うので表現を工夫してはどうか。
- ・マニュアルを誰に読んでもらいたいかを考えて情報を整理すればよい。広く一般に案内をするのはマニュアルではなく簡単なリーフレットで事が足りると思う。
- ・マニュアルを作成して一体何人の方に手に取って読んでもらえるかを考えると、やはり字が詰まった長いものでは威圧感があり、読まないように思う。A3の両面の概要版のようなパンフレットと、運営のために見る詳しいものとの用途によって分け

<p>会 長</p> <p>事務局</p>	<p>ることも必要かと思う。</p> <p>多くのご意見をいただいた。皆さんの意見の中には相反する内容もあるため全てを反映させていくことは当然ながら不可能だが、できるだけ意見を取り入れて工夫してマニュアルをつくっていければと思う。このマニュアルは本当によくできていると思う。大切な情報は上手くまとめて載せていただいている。見てもらうターゲットをどこにするかで、作成する内容も変わってくるのは確かだ。地域自治協議会とは何かを知りたいという人に見てもらうにはもっとすっきりと簡単なパンフレットのようなものが良いかもしれないし、既に設立された自治協議会で運営のために見るものであれば詳しいものが良い。また住民が見るものであればそれにふさわしいものも考える必要があるかもしれない。いずれにしても皆さんのご意見をいただきながらマニュアルづくりを進めていけたらと思う。</p> <p>地域自治協議会運営マニュアルとして多くの方に見てもらうとしても、そのターゲットとする層によってお伝えしたい情報も違ってくる。そのためパターンを変えたもので2種類作成することも考え、それぞれで見てもらうことも含め、次回またご提案できればと思う。</p>
	<p>4 その他</p> <p>今後の予定について</p> <p>(1) 第2回審議会の日程について</p> <p>(2) まちづくり活動審査部会について</p> <p>① 西脇市地区まちづくり実践補助事業の審査</p> <p>② 西脇市市民提案型まちづくり事業の審査</p>
<p>問合せ先</p>	<p>都市経営部まちづくり課</p>